

高校教員が『大学・短期大学に期待すること』のトップは「わかりやすい入学者受け入れ方針（43.8%）」 9割以上が大学の『入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）』を認知 「進路指導での活用」も半数を超える

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都品川区 代表取締役社長 山口 文洋）が運営する、リクルート進学総研（所長：小林 浩）は、高校の教育改革に関する現状を明らかにするため、全国の全日制高校に対して、高大接続改革、新しい学習指導要領、キャリア教育、進路指導、学校改革に関する取り組みに対しての調査を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部をご報告いたします。本調査によるリリースは「アクティブラーニング型授業」編、「高大接続改革」編、「専門職大学」編の計3つあり、本リリースは「高大接続改革」編です。

※本調査は、『キャリアガイダンス』編集部とリクルート進学総研が隔年で実施している調査で今回で第20回目。これまでは「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」の名称で、高校現場の実態を把握する調査として実施。第20回目の今回は「高校教育改革」の視点から高校現場の実態を把握することを目的としました。

高大接続・連携の観点から大学・短大などに期待すること

- 1位：わかりやすい入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）（43.8%）
- 2位：寮や奨学金、授業料免除の充実（42.1%）
- 3位：調査書等の電子化（39.8%）

「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」の認知と活用

- 高校教員の91.1%が「認知」している
- 認知者のうち「進路指導での活用」は57.0%

2020年度からセンター試験に代わって導入される「大学入学共通テスト」の対策

- 「大学入学共通テスト」対策を実施・検討している学校は93.8%
- 1位：アクティブラーニング型授業を増やす（64.6%）
 - 2位：英語の外部試験の受験を促進（59.3%）
 - 3位：理解・浸透・意識改革などの教員研修の実施（53.5%）

各大学の「個別選抜」改革において気になること

- 1位：英語の4技能評価の導入（66.7%）
- 2位：主体性等評価の導入（57.0%）
- 3位：総合型選抜・学校推薦型選抜での学力評価の必須化（48.3%）

※出版・印刷物ヘデータを転載する際には「高校教育改革に関する調査2018」リクルート進学総研調べ」と明記いただけますようお願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ先】

https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要】

- 調査目的：全国の全日制高校で行われている教育改革（高大接続改革、新しい学習指導要綱、キャリア教育、進路指導、学校改革に関する取り組みなど）の実態を明らかにする
- 調査期間：2018年10月5日（金）～2018年10月27日（土）投函締切
※10月31日（水）到着分までを集計対象とした
- 調査方法：郵送調査。校長宛に調査票を送付
- 調査対象：全国の全日制高校4703校
- 集計対象数：1203件（回収率25.6%）

【回答校プロフィール】

■設置者種別【時系列】（全体／単一回答）

(%)

	国公立	私立	無回答
2018年 全体 (n=1203)	72.6	25.9	1.5
2016年 全体 (n=1105)	71.0	28.0	1.1
2014年 全体 (n=1140)	73.3	25.9	0.8

■高校所在地【時系列】（全体／単一回答）

(%)

	北海道	東北	関東・甲信越	北関東	南関東	甲信越	東海・北陸	東海	北陸	関西	中国・四国	中国	四国	九州・沖縄	無回答
2018年 全体 (n=1203)	8.3	8.6	31.4	7.1	18.5	5.8	15.2	12.4	2.8	11.7	11.7	7.3	4.4	11.5	1.5
2016年 全体 (n=1105)	6.2	9.2	32.3	7.9	18.4	6.1	16.1	13.4	2.7	13.3	10.0	7.1	2.9	11.8	1.1
2014年 全体 (n=1140)	7.1	11.4	28.6	6.4	16.8	5.4	16.2	13.5	2.7	12.0	11.3	7.1	4.2	12.5	0.8

■高校学科(高校タイプ)【時系列】（全体／単一回答）

(%)

	普通科		総合学科		専門高校	その他	無回答	普通科	総合学科
	普通科単独校	普通科中心で学科併設校	総合学科単独校(移行中含む)	総合学科併設校					
2018年 全体 (n=1203)	56.8	20.9	5.5	1.1	13.7	*	2.0	77.7	6.6
2016年 全体 (n=1105)	56.6	20.2	6.2	1.2	11.5	3.4	0.9	76.7	7.4
2014年 全体 (n=1140)	54.6	20.1	5.2	1.1	11.8	5.4	1.8	74.7	6.3

※「その他」：2018年調査で選択肢を削除

■大学短大進学率【時系列】（全体／単一回答）

(%)

	70%以上	40～70%未満	40%未満	無回答
2018年 全体 (n=1203)	45.0	19.1	34.3	1.6
2016年 全体 (n=1105)	47.5	19.0	32.4	1.1
2014年 全体 (n=1140)	46.5	18.6	34.1	0.8

■校務分掌【時系列】（全体／複数回答）

(%)

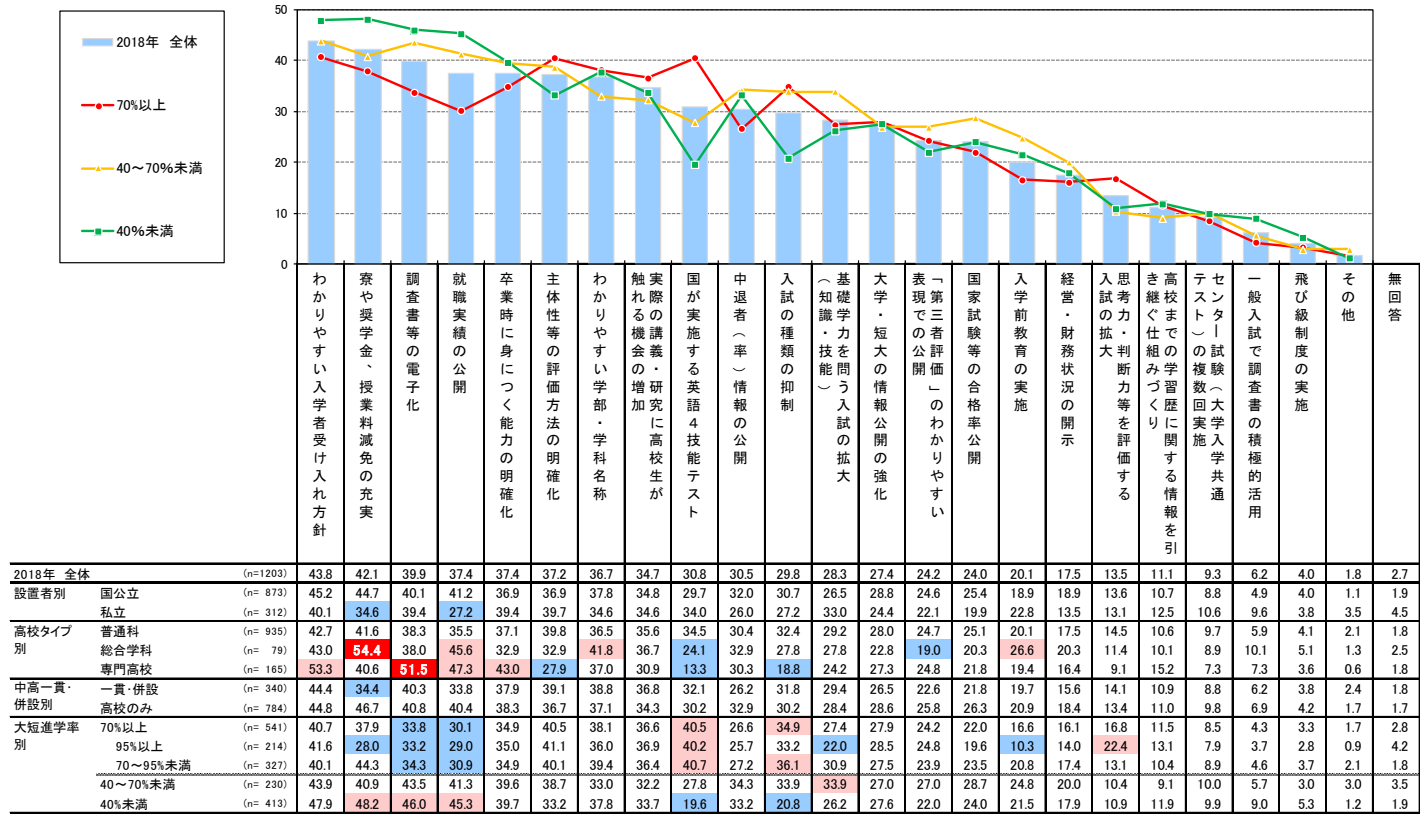
	校長	副校長	教頭	教頭（副校長）	進路指導主事	進路指導部	教務主任	教務部	学年主任	学年担当	その他	無回答
2018年 全体 (n=1203)	5.9	2.6	13.0	*	59.4	10.6	9.6	1.1	1.2	2.5	2.1	2.0
2016年 全体 (n=1105)	0.1	*	*	0.1	85.0	13.1	*	*	2.4	9.4	1.4	1.4
2014年 全体 (n=1140)	—	*	*	0.5	85.0	12.5	*	*	1.9	7.0	2.3	1.8

※2016年までは進路指導主事に調査票を送付、2018年は学校長に調査票を送付

※「副校長」「教頭」：2014年・2016年調査の選択肢は「教頭（副校長）」

- 1位：わかりやすい入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）（43.8%）
- 2位：寮や奨学金、授業料免除の充実（42.1%）
- 3位：調査書等の電子化（39.8%）

■大学・短期大学・文部科学省に期待すること（全体/複数回答）



※ +10.0 「2018年 全体」より10ポイント以上高い数値 +5.0 「2018年 全体」より5ポイント以上高い数値 ※「2018年 全体」降順ソート
 -10.0 「2018年 全体」より10ポイント以上低い数値 -5.0 「2018年 全体」より5ポイント以上低い数値

上記選択肢以外の意見や現状の課題（フリーコメント）

- 進学を希望している生徒が金銭面で諦めることがない仕組みをより充実してもらいたい。[静岡県/県立]
- 推薦入試、AO入試における学力試験、または一定学力の基準を設けるなど高校で学ぶ姿勢を大切にほしい。[愛知県/県立]
- 学問、研究の場としての大学という基本をしっかりと打ち出してほしい。「就職」という側面でアピールしすぎでは。[愛知県/私立]
- 高大連携的な講座の充実（模擬講義・研究室見学など）[千葉県/私立]

参考：入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）とは（文部科学省）

各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方式）に基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素※」）についてどのような成果を求めるかを示すもの。

※学力の3要素：（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

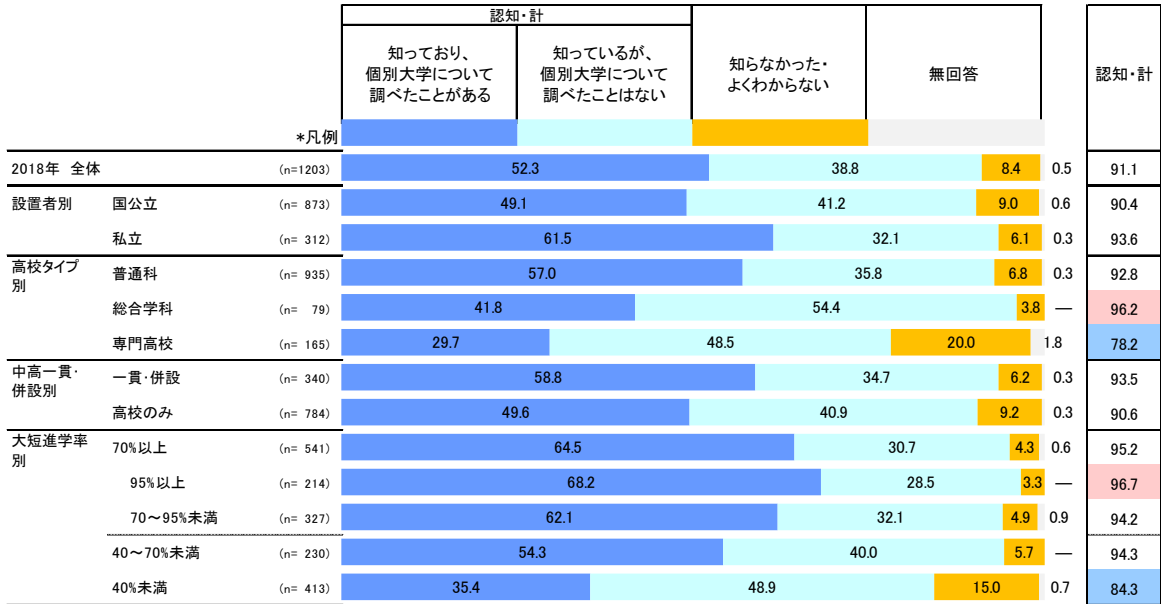
→現在、全ての大学において、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの3つのポリシーの策定とその公表が義務化されています。

■ 高校教員の91.1%が「認知」している ■ 認知者のうち「進路指導で活用」は57.0%

- ・進学率が高いほど個別大学のアドミッション・ポリシーを「調べたことがある」という回答が多い。
→大短進学率「70%以上」は全体より+12.2ポイントで、「95%以上」においては+15.9ポイント高い。

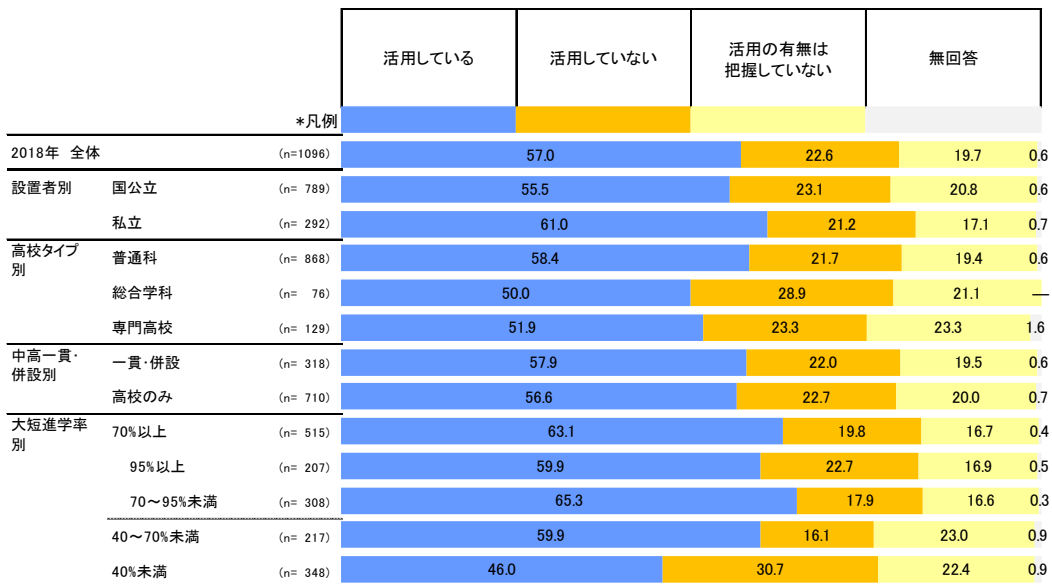
■「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」義務化の認知（全体／単一回答）

(%)



※付表： **+10.0** 「2018年 全体」より10ポイント以上高い数値 **+5.0** 「2018年 全体」より5ポイント以上高い数値
-10.0 「2018年 全体」より10ポイント以上低い数値 **-5.0** 「2018年 全体」より5ポイント以上低い数値

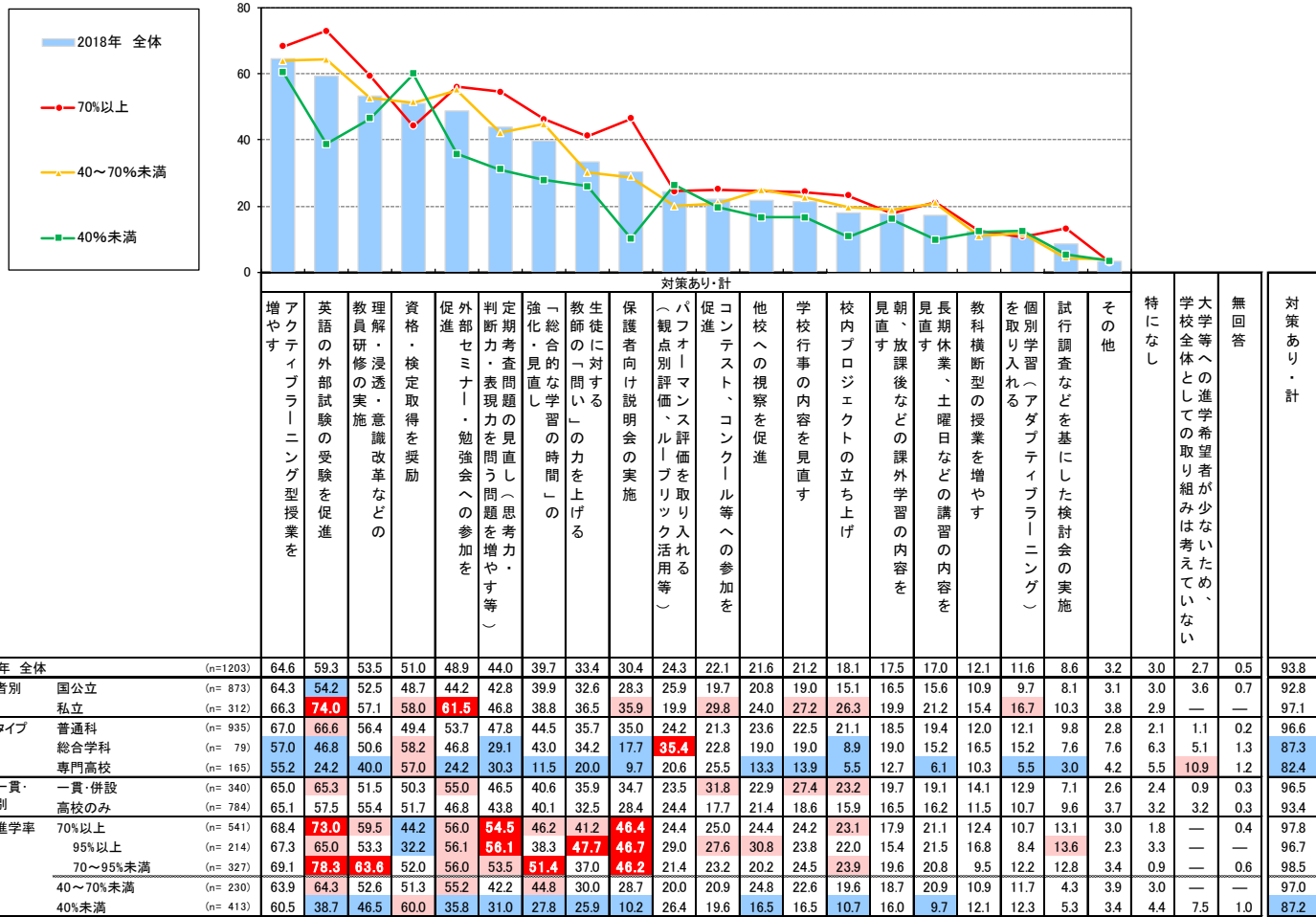
■「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」の進路指導への活用（「アドミッション・ポリシー」認知者のみ／単一回答）



■「大学入学共通テスト」の対策を実施・検討している学校は93.8%

- 1位：アクティブラーニング型授業を増やす（64.6%）
- 2位：英語の外部試験の受験を促進（59.3%）
- 3位：理解・浸透・意識改革などの教員研修の実施（53.5%）

■「大学入学共通テスト」に向けての対策（全体・複数回答）



※ +10.0 「2018年 全体」より10ポイント以上高い数値 +5.0 「2018年 全体」より5ポイント以上高い数値 ※「2018年 全体」降順ソート
 -10.0 「2018年 全体」より10ポイント以上低い数値 -5.0 「2018年 全体」より5ポイント以上低い数値

「大学入学共通テスト」に関して気になっていること（フリーコメント）

- 英語のテストが本当に完全外部化が可能なのか、またはその是非について、気になります。[岐阜県/県立]
- 記述式について、客観性が担保されるのか。採点者の負担。民間の試験を使う英語について、授業との関連性。[埼玉県/県立]
- 記述式の採点は適切に行うことができるのか。[北海道/道立]
- 英語4技能の評価等を中心に受験生が求められる学力が時期的に前倒しになっている。地方の中山間地域の小規模校にとって、苦戦が強いられる環境になりつつあると感じる。[岡山県/県立]
- 英語の外部検定試験の活用について、大学等の未定の要素が多すぎて対応に苦慮している。[埼玉県/県立]

参考：大学入学共通テスト

2020年度からセンター試験に代わって導入される「大学入学共通テスト」では、「知識及び技能」だけでなく大学入学段階で求められる「思考力・判断力・表現力」を一層重視するため、選択式問題の改善、記述式問題の導入や試験時間の延長等が予定されています。また英語については、英語は4技能の評価をめざし、民間の資格・検定試験も活用されることになりました。

各大学の「個別選抜」改革において気になること

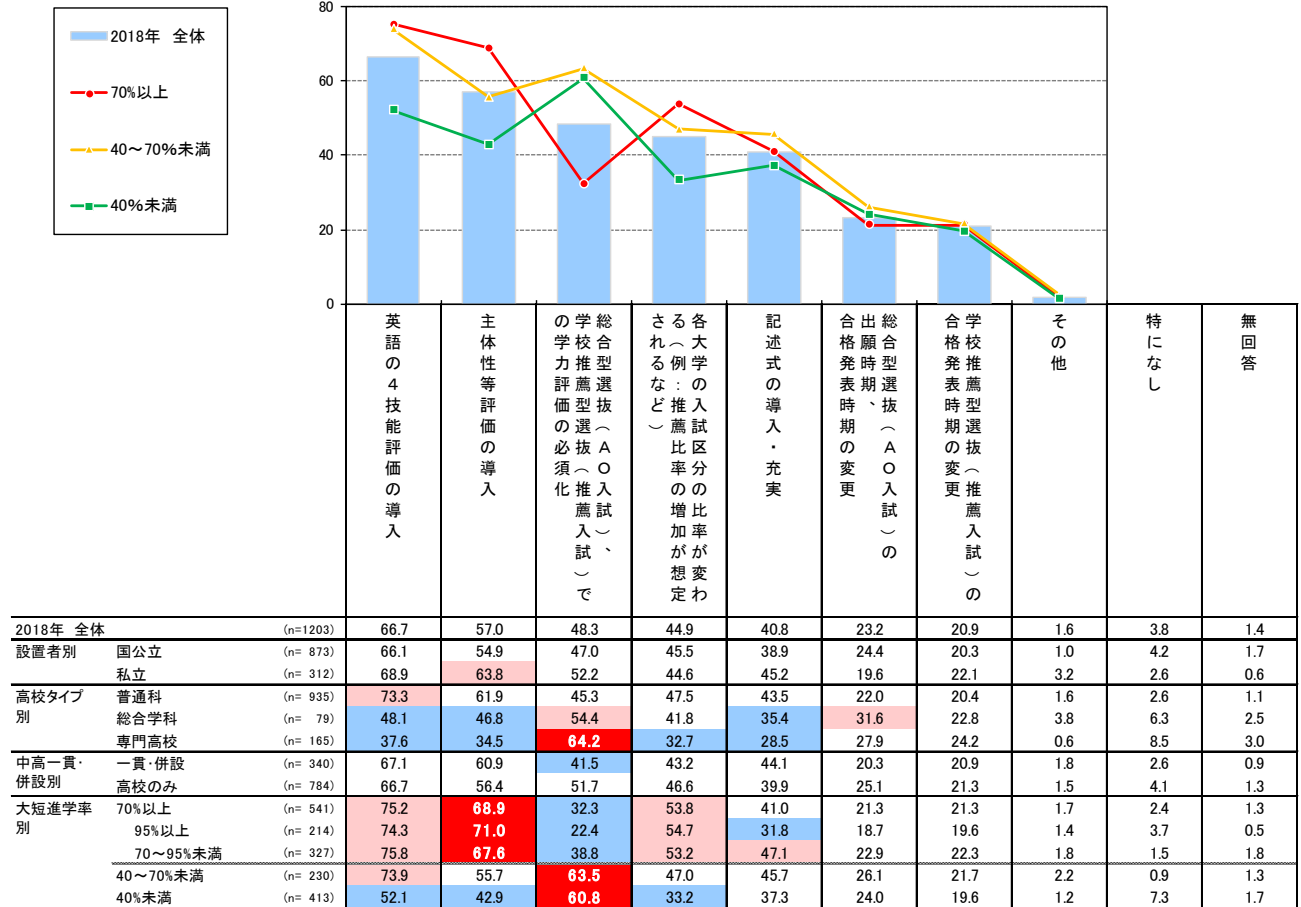
1位：英語の4技能評価の導入（66.7%）

2位：主体性等評価の導入（57.0%）

3位：総合型選抜・学校推薦型選抜での学力評価の必須化（48.3%）

■「個別選抜」の改革について気になる項目（全体／複数回答）

(%)



※ +10.0 「2018年 全体」より10ポイント以上高い数値 +5.0 「2018年 全体」より5ポイント以上高い数値 ※「2018年 全体」降順ソート
 -10.0 「2018年 全体」より10ポイント以上低い数値 -5.0 「2018年 全体」より5ポイント以上低い数値

各大学の「個別選抜」改革への期待（フリーコメント）

- 学力以外の観点の評価される点。3ポリシーをただの言葉、文章だけにせず教育活動の充実化につなげてほしい。[北海道/私立]
- A Oや推薦入試受験者に学力評価が加わることで、定期考査だけでなく、普段から学力向上に向けた学習を意識していくのではないかと期待している。[福岡県/私立]
- 高校3年間の活動の業績が評価とされること（一発勝負ではない）。[北海道/道立]
- 各大学とも思考力・表現力を問う設問が出されて、薄い知識がその場しのぎの理解だけで合格できるような入試から脱却してほしい。[千葉県/県立]

各大学の「個別選抜」改革への要望（フリーコメント）

- 「主体性」を測ることももちろん大切ですが、やはり一般受験での点数も今までと同じように評価してほしい。[北海道/道立]
- 英語外部試験の導入が、不公平なものであったり、共通テストや個別試験の価値を下げるものにならないようにしてほしい。[山梨県/市立]
- 大学が求める学生像を具体的に示してほしい（高校での活動歴等について）。大学とのマッチングの判断基準を具体的に示してほしい。[岐阜県/県立]
- 急激な変化には保護者、教員とも対応が困難な部分があり、不安である。情報発信をお願いしたい。[大阪府/市立]